

奈良のむかしばなし

第69話

水がわいた

文・山崎しげ子

奈良県の大和高田市。二上山、金剛葛城の青々とした山並みが、夏の澄んだ空に映えて美しい。今回はこの地にやってきた、旅のお坊さんの有難いお話。

昔、昔、千二百年ほど前のこと。夏の太陽がジリジリと照り付ける日、錫杖しやくじょうを持った一人のお坊さんがある家の門口に立っていた。

「喉が渴いてどうにもならん。水を一杯飲んで下されや」

若い嫁よめが出てきて、「それはお気の毒に。でも、ここは水なし村と言われるほど水のないところ。その代わり、マタタビの実でどうぞ喉を潤して下さい」

その実のおかげで、お坊さんはすっかり元気を取り戻した。「有難い。助けて頂いたお礼に」

と、お坊さんは近くの辻で、足元の土を錫杖の先でトントンとたたいた。と、あら不思議、きれいな水がこんこんと湧き出たではないか。

これが今も残る名高い井戸で、地名も、井戸があることから有井と呼ばれた。その不思議なお坊さんは、弘法大師さまだったそう。

さてさて、今回もまた奇跡をおこした弘法大師のお話。この「奈良のむかしばなし」でも似た話がいくつか登場している。大根の葉に虫がつかないようになり、村娘を色白美人にしたり、塩に困っていた村で岩から塩水を出したりなど(第34、45、60、64話)。奈良県のみならず、実は日本各地で大師の超能力者のような説話が多く残されている。

日本仏教界の巨星、超人的な天才と言われる弘法大師空海。彼は遣唐使に従って中国に渡って学び、密教を日本に伝えた。そして、嵯峨天皇から賜った高野山に寺院を建て、

多くの弟子を育てた。

その高野山からのちに「高野聖」と呼ばれる僧たちが、大師信仰の布教を兼ね、日本各地に大師の不思議な法力で、困っている人たを助けた説話を広めて歩いた。説話の数は、五百ともそれ以上とも。

東大寺、大安寺、興福寺などでも足跡を残し、奈良との縁も深い。



有井の井戸

大和高田市立磐園小学校(大和高田市有井)の西南の道路に面している井戸。

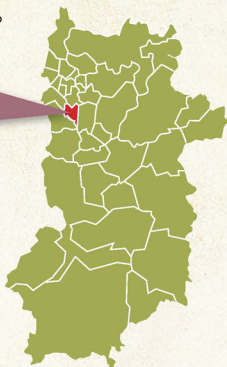
「弘法井戸」と呼ばれ、弘法大師が掘ったと伝えられている。現在、井戸は木製の蓋がさされているが、石造枘形の井筒があり、小堂を設けて保存されている。

また、この井戸のある有井は、文明年間、一向宗蓮如れんごに帰依した當麻たまたま為綱ためつなが居館をこぼち正行寺とし、寺と村を囲む二重環濠集落としたことで有名な地である。



物語の場所を訪れよう

「有井の井戸」(大和高田市有井7)へは…
近鉄大和高田駅より南西へ約400m。



大和高田市教育委員会文化振興課
☎0745-53-8200 FAX 0745-53-8201